

収納にこだわり新築

ゆるやかに仕切り集う場に



上原咲子さん

(ベジフルビューティーセルフアドバイザー)

ダイニング
から見ると……



アイランド型のキッチンを含んで壁面収納と子どもたちが勉強できるカウンターを設けた



リビング・ダイニングからキッチン側を見る。シンクを目隠しするように壁を設け、リビング・ダイニングからの視線を遮った。ゆるやかに空間を仕切りながら、つながりも保つ工夫が光る

ジュニア野菜ソムリエ、ベジフルビューティーセルフアドバイザーの資格を生かし、夫が営むリフオーム会社を手伝いながら、1日クッキングヒーターを取り入れた顧客向けに料理教室を開いている上原咲子さん。共働きで4人の子どもの育てる上原さんの自宅は、地下1階に駐車場を設けた鉄筋コンクリート造3階建て。収納を重視し2年ほど前に、新築した。

リビング・ダイニングと横並びにあるキッチンは、「みんなが料理に参加できるように」アイランド型に、シンクのある中央部のみに壁を設けてゆるやかに空間を仕切る。

当初はリビング・ダイニングと一体型のキッチンを考えていたが、建築士の提案でキッチン本体を目隠しする壁を設けた。たくさんのお客さまの料理を用意するときは、どうしてもキッチンがこたがえす。目隠し壁のおかげでそれをお客さまに見せずに済むので、助かっています。

仕事柄、鍋や調理器具が多いというが、引き出し式と扉付きの隠す収納でスッキリ片付けている。

キッチン内には子どもたちが勉強できるよう、壁際にカウンターテーブルも設けた。上原さんが食事の準備をしていると、カウンターで宿題をしている子どもたちは「何作ってるの?」「やりたい!」



お手伝いもラクラク

子どもも使いやすい収納

隠す収納で、スッキリ整った上原さん宅のキッチン。壁面に設けた収納の下部は、取り出しやすい引き出し式になっている。シンクと高さをそろえることで、作業がしやすく見た目もスッキリ。上原家では、朝、食洗器から食器を取り出して片付けるのは、小学1年の三女の役目だとか。子どもでも手が届く高さなので、お手伝いもしやすいよう。

と興味津々。「新築して一緒にキッチンに立つ機会が増えました。1日なので、子どもだけでも安心して使わせることができる」とにっこり。

上原家では、子どもたちも家事を分担して手伝うのがルール。食事の支度では、小6、小4、小1の3人娘が盛り付けや調理器具の片付けなどを手伝うこともあり、家族とのコミュニケーションはキッチンが一番多い」と上原さん。キッチン両サイドに立つて作業ができるから、4人いっぺんに立つても動きやすい。「休みの日は、カウンターに夫が腰掛けて、私たちが作る料理をつまみながら過ごすことも多い」。家族の時間がキッチンで育まれている。